

「希望郷いわて国体」開催 海外の岩手県人会関係者も出席

2016年10月29日 サンパウロ新聞

• by Nádia Sayuri



開会式で勢揃いした選手団(千田会長提供写真)

日本国内初の海外県人会サミットも



1日夕に行われた歓迎会で記念撮影(写真は岩手県提

供) 第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」が、1日～11日に岩手県各地で開催され、その開会式が1日、天皇皇后両陛下をお迎えした秋晴れのもと、北上市の総合陸上競技場で行われた。開会式には海外や日本国内の岩手県人会関係者の姿もあり、ブラジルから千田曠暁会長夫妻ら岩手県人会関係者

6人をはじめ、アルゼンチン(1人)、パラグアイ(ピラポ2人、イグアス2人)、アメリカ(2人)のほか、国内からは京都県人会(7人)なども出席した。

ブラジルから参加した千田会長によると、開会式では、幼児の舞、伝承芸能の虎舞、さんさ踊り、鹿踊り、鬼剣舞など様々なオープニングセレモニーが行われ、約200人が舞う踊りは圧巻だったという。

その後、選手団4600人が入場。炬火(きょか)がともされ、8月に開催されたリオ五輪で競歩に参加した高橋英輝選手とホッケーの小沢みさきさんの両氏が選手宣誓し、岩手県出身の芸能人のメッセージや唄なども披露された。ちなみに、高橋選手は今国体1万メートル競歩で大会新記録を更新している。

千田会長は「奇しくも47年前に父が参加し、今回、息子である私が参加できたことは感慨深いものでした。東日本大震災の復興途中であるにも関わらず、県民一体となって国体を成功させたことに敬意を表し、開会式の様子をブラジル在住の県人の皆様に広く伝えたいと思いました」と語った。



今回の訪日で千田会長らは、9月30日に盛岡市で日本国内では初めて開かれた「海外県人会サミット」にも参加。昨年、母県からの慶祝団がパラグアイのピラポ岩手県人会記念行事参加の途次、サンパウロ市の岩手県人会で交流会を行った際、海外県人会代表者を今回の国体に案内し、県人会サミット開催を提案した経緯があった。このたび実行されたサミットでは、各国県人会の活動が報告され、移住者減少に伴う世代交代の時期であることなどを訴えたという。

また、国体開会式出席後の1日夕には、県職員担当部局や南米からの訪問者、民謡協会員や研修員など75人が参加しての盛大な歓迎会も開かれたほか、2日は震災被災地の視察も行われた。

3日は、千田会長の父親の出身地である金ヶ崎町を千田会長夫妻が訪問。同町では国体競技であるソフトボール会場に招待され、高橋由一町長と4年ぶりに再会した。さらに、金ヶ崎町の生涯教育センターでは、今年8月にリオ市のジャパンハウスで出会った鬼剣舞の庭元・菅原晃さんとも会い、リオでの思い出を語り合った。

国体で母県へ、岩手県人会＝伝統芸能で開幕に「誇らしい」

2016年10月22日 New! ニッケイ新聞



開会式に訪れた関係者ら(岩手県提供)

今月11日に閉幕した希望郷いわて国体のため、ブラジル岩手県人会から千田曠暁会長ら6人が日本を訪れた。1日の開会式を現地で観戦したほか、県庁への表敬訪問や他国の県人会と交流する機会も設けられた。

一団は28日に県庁を訪問し、その後、県人会報への記事提供などで交流のある岩手日報社を訪れた。8月の台風10号被害への義援金として、25万円の寄付を送ったことなどを報告した。

30日には海外県人会サミットが開催された。国体に合わせ同じく訪日した米ニューヨーク、亜国、パラグアイのピラポー、イグアスの県人会と意見交換した。外国から7人、県側からは14人が出席し、文化継承や世代交代の難しさが各団体の課題に挙げられた。

国体の開会式は1日、北上市で行なわれた。鬼剣舞や鹿踊といった郷土の伝統芸能が式典に彩を添え華々しく開幕を祝した。千田会長は「大人数での演目は圧巻だった。大変素晴らしい芸能披露で、県人として誇らしい」と語り、「父の安治が46年前の国体を観戦している。息子の私がこうして今大会を見にこれたと思うと感慨深い」と思いを馳せた。

1日夜には各国県人会を招き、県主催の夕食会が開かれた。当地から盛岡市内で研修中の八重樫亜紀カリンさんも加わり、総勢75人がテーブルを囲んだ。

県の民謡協会や相撲連盟など、ブラジル県人会創立の節目などで来訪経験のある関係者との再会に千田会長は、「食べる暇もなかった」と振り返り交流のひと時を喜んだ。また全国に50人ほど在籍する、ブラジル岩手県人会賛助会員の会から吉田恭子会長らも招待された。

翌日には東日本大震災の被災地にも視察へ。昨年からの当地県人会が要望していた交流が実現し、充実した滞在を終えた。

□関連コラム□大耳小耳

11日に終了した岩手国体では、選手宣誓に競歩の高橋英輝選手が登場した。リオ五輪の日本代表で、県人会が観戦会を開いて聖市から声援を送ったあの選手だ。五輪では42位だったが、国体では大会新で優勝する活躍を届けた。



金木犀

訪ねた民家の庭から一瞬、独特の甘い香りがし、足をとめた。「なんだっけ」と記憶をたどり、すぐさま金木犀のにおいであることを思い出した。視線の先に小ぶりの若木があり、緑色の葉の間から、橙黄色の小花が群がるように咲いている。秋の深まりを感じる。

秋の彼岸ごろから花が咲き出す金木犀。晴れた日などは散策の道すがら、どこからともなく芳香が漂ってくるものだ。夏のにぎやかさも異なる、秋ならではの奥行きのある花の香気と色彩。郷愁にかられる気分。

そこはかたなく漂う芳香

中国原産。金木犀、銀木犀、薄黄木犀などがあり、すべてを含めて「木犀」と呼ぶ。日本に渡来したのは江戸時代で、その多くは観賞用の庭木として植えられた(「新日本大歳時記」)。近づきすぎず、ほどよい距離で香りを楽しむのがいい。

絵
つれづれ
文と絵 渡辺 晃



金ヶ崎町はこのほど、希望郷いわて国体開催高橋由一町長と握手を交わすブラジル県人会の千田曠暁会長(左)と妻照子さん(森山絵合公園野球場)

千田・ブラジル県人会長 国体ソフトボール観戦 父親が金ヶ崎出身の縁で

金ヶ崎町はこのほど、希望郷いわて国体開催高橋由一町長と握手を交わすブラジル県人会の千田曠暁会長(75)と妻の照子さん(75)を同町のソフトボール少年男子競技会場に招待。4年ぶりに過ごす金ヶ崎での時間を楽しんだ。

ブラジル県人会は1959(昭和34)年10月、同郷人の親睦交流を目的に発足。千田会長の父が同町西根本町の出身であることなどが縁となり、同会と同町は親密な友好関係を築いてきた。

千田会長らの来町は、県人会創立55周年記念式典への招待状を届けに表敬訪問した12(平成24)年9月以来、4年ぶり。千田会長は「他県で国体が開催される時、各県人会にも母県から案内がある。岩手でも国体開催を機会に、各国の県人会が情報交換し交流する機会が持てないか、昨年県庁に要請したという。」

千田会長夫妻は、4人の県人会メンバーと共に、9月30日に盛岡市内で開かれた海外県人会交流会に出席。1日は、北上市で国体総合開会式を観覧し、2日は宮古市の浄土ヶ浜など沿岸被災地を視察した。

「46年前の国体は、父安治が観覧した。今回、私が見ることができて、とてもうれしい」と千田会長。妻の照子さんは両親が長崎県出身という日系2世で、「ソフトボールは初めて見た。岩手には何度か出てきてほしい」と次に続く選手たちを応援していた。友人もたくさん来てくれた。久しぶりにお会いし、みなさんとの絆を強めることができたと笑顔を見せた。

女子63歳以下級 トータル170キロの県新記録を樹立した 佐藤陽南乃選手(水沢高3年)

2010 希望

録) <少年男子(1位記

手(千葉・いちごグループホールディング

日に花を飾った。

ちこにエールを送った。

南部鉄器4割

恒例のまつり。

第37回市南部鉄器まつりは、8、9日の2日間、水沢区羽田町の市物産技術交流センターと市伝統産業会館を会場に繰り広げられる。南部鉄器が4割引きで販売される年に1度の機会。他にも恒例の鉄けた飛ばし大会な

楽しみながら交流の輪を広げた。